



主体性を育む

教頭 藤田 泰

「教育は、教えて育てると読みたい。育てたいのは将来社会的に自立し、逞しく豊かに生きるための力、突破力のある生徒である。そのためには知識を基盤とした生きるための知恵、主体的に生きる力を育成すべきである。」これは、今春、菊地校長が赴任して第一番目に掲げたビジョンの一つである。

我々教職員は、このビジョンの達成を目指し、何事も自ら考え、自ら責任をもって行動し、やがては日本を、ひいては世界を支えていくことができる自立・主体的に活動できる力を育てようとして取り組んでいる。

江戸時代に生きた安藤直次は徳川家康に見込まれ、紀州藩主頼宣の後見役を勤めた人物である。若い時代の頼宣を厳しく訓

育し、名君たらしめた人物として知られている。その直次の下に様々な人が決裁を仰ぎにやってくる。直次は要となる案件以外には「よろしい」とか「いけない」としか言わない。「いけない」と言われた人が考え直して再び決裁に伺っても、満足できる案がでるまで「いけない」を繰り返すばかりであった。

「何故に指示をなさらないのですか」と問われたところ、「ゆく末、紀州家を支えてゆく人を育てようとしているのです。いちいち指図をしているのは、皆が私を頼り、自ら考え判断することをしなくなりませぬ。それでは紀州を支えてゆく人材は育ちませぬ」と答えたそうである。

生徒諸君は社会に出て活躍するために様々な知識と経験を必要としている。また、社会に出てからもさらに経験を積み日々成長していかなければならない。今、その知識と経験の仕方を学んでいるところである。無限の可能性と輝ける未来を持つては

いるが、当然に未熟な部分、足りない部分も多い。「ああしなさい、こうしなさい」と諭さなければならぬところも多々ある。しかし、それに終始することなく、様々な問題に対して、自ら考え判断し、行動を起こしていく姿勢も大切に育てていかなければならない。

今、生徒諸君は、生徒会執行部などを中心として、主体的に

活動しようとする姿勢が芽生えつつあるように感じる。保護者の皆様と共に大切に育てていきたい。



社会を生き抜く

PTA副会長 尾嶋 弘行

はじめに「東日本大震災」において被災された方々に、心より御見舞い申し上げます。県内でもいまだ修復されていない建物等が多く見られ心苦しく思います。

震災後「絆」という文字が多用され、特に家族の絆の大切さに気付き、結婚を前向きに考える人が増えたと聞きます。

私が絆の大切さを特に感じたのは今から五年前…「シングルパパ」になった時です。仕事と子育ての両立は思ったより難しく、両親、二人の姉、そして甥や姪に至るまで、家族（親族）総動員で応援してもらいました。

幸いにも親と同居なので、衣食住には困りませんでした。が、学校や習い事等の送迎は両親に、学校や地域の行事等は姉達に、宿題関係は甥や姪にと分担し、協力し合い乗り切ってきました。そして、楽しみも悲しみも、喜び合い、励まし合い生きてきました。愛情いっぱいの子育てを息子達も感じとってくれている事と思います。

高三の長男、中三の次男・三男（双子）は、もちろんの事性格も気質も違い、親として教える論すにもそれぞれ違いがでています。また、三人共に受験生で、親としては進路の導き方で悩む日々です。悩みは尽きないので、最終的に、将来子供がどの様に「生きていく」かを親子で話し合い、それに応じた進路に導くよう努力しています。

よく「生きる力」という言葉を耳にしますが、学校においても家庭においても、教育の最終目的は「社会を生き抜く力を身につけさせる事」だと思います。どんな状況におかれても生き抜く知識・生活力・人間性を養い、精神的・経済的・社会的に自立できる様に手助けする事が、我々大人の使命だと思います。

ただ「生きる」のではなく、目標を持って意義のある人生を送れる様に、人生を楽しみながら「生き抜ける」様に、私達大人も生活を楽しむ事で見本となりたいと思います。「生き抜く

力」に「絆」がプラスされれば、とても有意義な人生となるでしょう。三年生は、あと三ヶ月余りで社会に飛び立ちます。進学される方は受験勉強で親も子も疲れ果てている事と思います。就職される方も、社会に出る希望や不安でいっぱいでしょう。目標を持って生活も勉強も楽しみ、残り少ない高校生活の思い出を親子で作って欲しいと思います。

PTA支部会が開かれました

支部名	開催日	場 所
雀 宮	7 / 2 (土)	本校会議室
横 瑞	7 / 16 (土)	北海道楽
下野・下都賀	9 / 25 (日)	下野スポーツ交流館
中 央	10 / 1 (土)	宇都宮グランドホテル
合同支部会	11 / 25 (金)	本校第一体育館

8校球技大会

厚生部

七月三日(日)雀宮中学校において八校球技大会が開催されました。

朝からとてもむし暑い中で試合になりましたが、ソフトボールは五代小と、バレーボールは新田小と対戦しました。

惜しくも一回戦で負けてしまいました。選手の皆様は、とても生き生きとしたプレーをしてくれました。

大会に出られた選手のお疲れ様でした。

朝早くからお手伝いと応援をしていただいた役員の方には、大変お世話になりました。



一人が交通ルールを守り、時間に余裕を持って登下校をしてほしいと思います。

PTA交通街頭指導

生活指導部



九月二十六日(月)から二十八日(水)の三日間、朝八時から八時半まで職員と生徒と共に交通指導を行いました。場所は例年と同じセブンイレブン東谷店前と雀宮駅南踏切、マルカ冷蔵前の三ヶ所です。今回はお天気に恵まれ、また、気持ちよく挨拶も交わせたので爽やかに活動することが出来ました。

生徒の大半が自転車通学をしています。朝夕は交通量も多く、ヒヤリ、ハツとした事もあるのではないのでしょうか。生徒一人一人が交通ルールを守り、時間に余裕を持って登下校をしてほしいと思います。

関東高P連大会

栃木大会

第五十七回関東地区高等学校PTA連合大会は、七月八日(金)九日(土)の両日栃木県で開催され、関東六県と山梨県からPTA代表者が一堂に会し、PTA活動についての意見や情報を交換しました。

大会初日の八日は、宇都宮市のマロニエプラザを会場とし、全体会及び作家の落合恵子氏による記念講演がもたれました。今年度は、栃木大会のため、本校からは、PTA代表者数名が参加し、受付の担当をしました。

二日目は、日光鬼怒川温泉地区内ホテルを会場とし、六つの分科会が開催されました。本校は、第一分科会の山梨学院大学附属高等学校と神奈川県立茅ヶ崎高等学校発表の「高等教育とPTA」に参加し、これからのPTAの望ましいあり方を考えました。



全国高P連大会

北海道大会

八月二十五日(木)から、札幌にて「いのち、輝け!」をテーマに開催されました。稚内の高校生による「南中ソラン」の迫真の舞は、大きな感動を呼びました。

また、前旭山動物園園長の小菅正夫氏による「命をつなぐ」と、題した記念講演が行なわれ改めて命の重さ、尊さと向き合う大会となりました。



栃木高P連

PTAスクール

十月二十日から二日間にわたり、日光市のあさやホテルにて開催されました。一日目は、



開会行事の後、県教委事務局の萩原主幹の講話があり、二日目は、栃木翔南高校・黒磯高校の事例発表による研究協議が行なわれました。子ども達の自己実現のために、学校、保護者、地域が連携することの大切さを改めて感じました。